

高城町文化財調査報告書 第16集

雀ヶ野第3遺跡

(第3次調査)

九州電力株式会社小丸川幹線新設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査

2004

高城町教育委員会

序

本報告書は九州電力株式会社小丸川幹線新設工事に先立ち、実施いたしました雀ヶ野第3遺跡第3次発掘調査の記録です。

今回の調査では都城盆地において数少ない旧石器時代遺物の確認のほか、縄文時代早期に位置する集石遺構の出土など多くの成果が上がりました。今回の調査で得られた成果は当地域の歴史を考える上で貴重な資料になると思われます。

また、この報告書が文化財の保護のみならず、学校教育・生涯学習の場においてそれぞれの形で用いられ、地域に対する関心を深める手助けとなれば幸いです。

最後になりましたが、多大なるご協力を賜りました各関係機関並びに町民各位の皆様方に心から深く感謝を申し上げます。

平成16年3月

高城町教育委員会

教育長 内田國昭

例　言

- 1 本書は高城町教育委員会が平成14年11月20日から平成15年1月31日にかけて、宮崎県北諸県郡高城町大字四家字雀ヶ野252番地17、31、85において実施した埋蔵文化財発掘調査の成果をまとめたものである。
- 2 本発掘調査は九州電力株式会社小丸川幹線新設工事に伴うものであり、発掘調査から報告書作成にかけての一切の業務は高城町教育委員会が委託を受け、宮崎県教育庁の指導のもとに実施した。
- 3 本発掘調査の主体者及び担当者は次のとおりである。
　　主体者 高城町教育委員会
　　担当者 近沢恒典
- 4 本報告のための整理作業は平成15年度に実施した。
- 5 本書の執筆及び編集は下記の者が行った。
　　近沢恒典（高城町教育委員会社会教育課主事）
- 6 遺構・遺物の実測及び遺構写真、遺物写真的撮影は近沢恒典が行った。
- 7 本書で使用した標高は高城町役場建設課が設置した基準点を使用した。また本書において使用した緯度・経度及び座標値は世界測地系を使用している。
- 8 調査及び報告書作成にあたり以下の方々にご教授・ご助言をいただいた。（五十音順・敬称略）
　　秋成雅博　　桑畠博光　　重留康宏　　松本茂　　山崎薫
- 9 記録類や出土遺物は高城町教育委員会に保管している。

本文目次

| | | |
|---|-----------|----|
| 1 | 発掘調査に至る経緯 | 2 |
| 2 | 調査の組織 | 2 |
| 3 | 遺跡の立地と環境 | 4 |
| 4 | 調査の方法及び経過 | 4 |
| 5 | 層序 | 6 |
| 6 | 遺構と遺物 | 8 |
| 7 | まとめ | 14 |

挿図目次

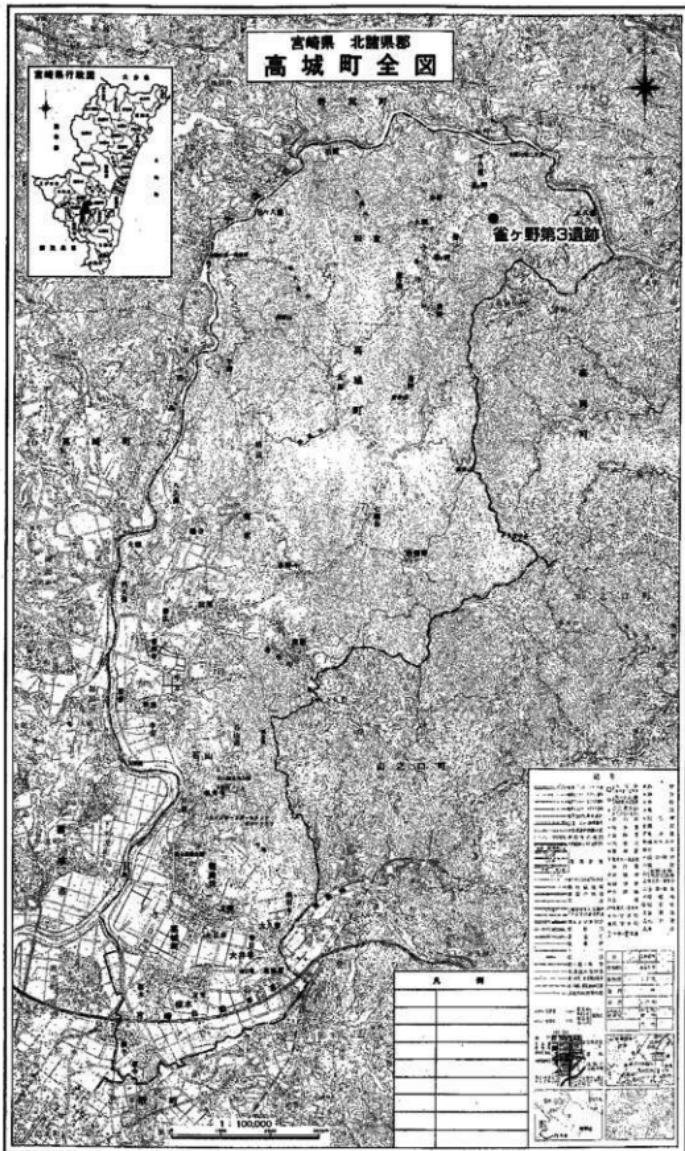
| | | |
|--------|----------------------|----|
| 第 1 図 | 遺跡位置図 | 1 |
| 第 2 図 | 周辺遺跡位置図 | 3 |
| 第 3 図 | 調査区位置図 | 5 |
| 第 4 図 | 土層図 | 6 |
| 第 5 図 | 遺物・遺構分布図 | 7 |
| 第 6 図 | 1 号土坑実測図 | 8 |
| 第 7 図 | 1 号土坑出土石器実測図 | 8 |
| 第 8 図 | 1 号散礫・1 ~ 4 号集石出土状況図 | 9 |
| 第 9 図 | 1 ~ 3 号集石実測図 | 10 |
| 第 10 図 | 4 ~ 6 号集石実測図 | 11 |
| 第 11 図 | 出土遺物実測図 | 13 |

表目次

| | | |
|-----|---------|----|
| 表 1 | 出土土器観察表 | 12 |
| 表 2 | 出土石器観察表 | 12 |

図版目次

| | | | | |
|------|---------|-------------|---------------|-------------|
| 図版 1 | 遺跡遠景 | 南側調査区遺物出土状況 | 南側調査区完掘 | |
| 図版 2 | 北側調査区完掘 | 層序 | 1 号散礫 | |
| 図版 3 | 1 号土坑完掘 | 1 号集石遺構 | 2 号集石遺構 | 2 号集石遺構掘り込み |
| | 3 号集石遺構 | 3 号集石遺構掘り込み | | |
| 図版 4 | 4 号集石遺構 | 4 号集石遺構掘り込み | 1 ~ 4 号集石遺構完掘 | 6 号集石遺構 |
| | 5 号集石遺構 | 5 号集石遺構配石 | | |
| 図版 5 | 出土遺物 | | | |



第1図 遺跡位置図(1/100,000)

1 調査に至る経緯

小丸川幹線新設工事を進めている九州電力株式会社より、送電線鉄塔建設予定地について社会教育課に照会があった。事業予定地は「町内遺跡分布詳細報告書」(高城町教育委員会 1998)において雀ヶ野第3遺跡として記録される周知の文化財包蔵地内であった。その後の協議の結果、平成14年10月、発掘調査に関する協定書が九州電力株式会社と高城町教育委員会との間で締結された。

協定書に基づき平成14年11月5日付けで、九州電力株式会社と高城町教育委員会との間に発掘調査の業務委託契約書が締結され、平成14年11月20日より平成15年1月31日にかけて発掘調査が実施された。

2 調査の組織

雀ヶ野第3遺跡第3次調査の調査組織は以下のとおりである。

平成14年度：発掘調査

主 体 高城町教育委員会

| | | | |
|-----------|-------------------------|--|--|
| 教 育 長 | 内 田 國 昭 | | |
| 社会教育課課長 | 江 内 谷 満 義 | | |
| 同 課 長 補 佐 | 中 村 敏 和 | | |
| 同 主 任 主 査 | 佐 藤 潤 子 (庶務担当) | | |
| 同 主 事 | 近 沢 恒 典 (調査担当) | | |
| 発掘調査作業員 | 井 上 強 岩 永 スズ子 大 浦 フ ミ | | |
| | 亀 岡 敏 盛 審 田 エミ子 黒 木 トミ子 | | |
| | 黒 木 セイコ 島 本 郁 子 間 ツユ子 | | |
| | 永 峰 マツエ 福 元 久美子 古 川 清 秀 | | |
| | 山 内 富 康 | | |

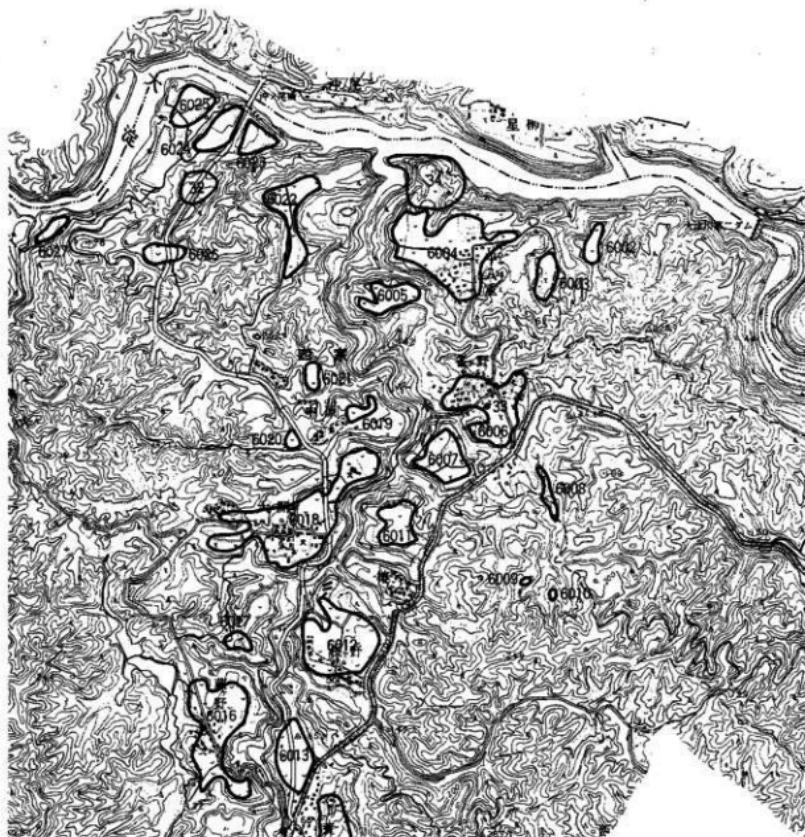
指 導 宮崎県教育庁

文化課主査 飯 田 博 之

平成15年度：整理・報告書作成

主 体 高城町教育委員会

| | | | |
|---------------|------------------|--|--|
| 教 育 長 | 内 田 國 昭 | | |
| 社会教育課課長 | 江 内 谷 満 義 | | |
| 同 課 長 補 佐 | 新 地 安 弘 | | |
| 同 文 化 係 長 | 永 峯 キ又子 | | |
| 同 主 査 | 小 河 原 隆 文 (庶務担当) | | |
| 同 主 事 | 近 沢 恒 典 (報告書担当) | | |
| 指 導 宮崎県教育庁 | | | |
| 文化課主査 飯 田 博 之 | | | |



第2図 周辺遺跡図(1/25,000)

| | | | |
|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 32 井之城址 | 33 雀ヶ野地下式古墳 | 34 平八重城址 | |
| 6002 平八重第1遺跡 | 6003 平八重第2遺跡 | 6004 平八重第3遺跡 | 6005 平八重第4遺跡 |
| 6006 雀ヶ野第1遺跡 | 6007 雀ヶ野第2遺跡 | 6008 雀ヶ野第3遺跡 | 6009 雀ヶ野第4遺跡 |
| 6010 雀ヶ野第5遺跡 | 6011 椿遺跡 | 6012 様ヶ野遺跡 | 6013 菅野第1遺跡 |
| 6016 薩ヶ野第1遺跡 | 6017 薩ヶ野第2遺跡 | 6018 大開遺跡 | 6019 中原第1遺跡 |
| 6020 中原第2遺跡 | 6021 後屋敷遺跡 | 6022 井之城第1遺跡 | 6023 井之城第2遺跡 |
| 6024 井之城第3遺跡 | 6025 井之城第4遺跡 | 6026 井之城第5遺跡 | 6027 井之城第6遺跡 |

3 遺跡の立地と環境

雀ヶ野第3遺跡は高城町大字四家字雀ヶ野に所在する。

高城町は宮崎県の南西部、鰐塚山地、霧島火山群に囲まれ鹿児島県との県境である都城盆地の北東部に位置する。南部は都城盆地へと続く平野部であり、北部は鰐塚山地の北縁にあたる山間部となり、都城市、高崎町、山之口町、三股町、高岡町、野尻町の1市5町に囲まれ南北に長い町域を形成している。

雀ヶ野第3遺跡は高岡町、野尻町との町境に近い高城町の北部に位置し、九州山地、鰐塚山地の間に広がる小起伏山地の北端、東流する大淀川とその支流穴水川との合流点より南へ約2kmの地点にあたる。尾根に沿って約300mが細長い範囲で、縄文時代・弥生時代の土器の散布が見られる周知の遺跡として記録されている。今回の調査区は遺跡の範囲の西側、北西—南東方向に伸びる標高約180mの尾根の南端に立地し、東、南、西の3方向に傾斜をもつ。調査区の在する尾根の南西下には穴水川へと続く谷があり込む。雀ヶ野第3遺跡は九州電力株式会社宮崎変電所新設工事に伴い過去2度の発掘調査が実施されており、現在整理中であるが、細石刃、細石核、有舌尖頭器の他、縄文時代早期の集石遺構等が出土している。また九州電力宮崎変電所関連の工事に伴って調査された南側の尾根上に位置する雀ヶ野第4遺跡、第5遺跡でも集石遺構が多数出土している。

周辺の遺跡として穴水川沿いに形成されるシラス台地上に多くの遺物散布地が確認されており、縄文時代早期の遺跡としては集石遺構、石材集積、前平式土器等が出土した様ヶ野遺跡が穴水川東岸台地上に位置する。古墳時代の遺跡としては穴水川の東岸、雀ヶ野第3遺跡の在する尾根から谷を挟み西側に位置するシラス台地上に雀ヶ野地下式横穴墓群が形成され、1基のみの調査であるが鉄劍1、刀子1、鐵鐵24、鐵斧1が出土している。また大淀川沿いに多くの中世城址が確認されており、一部調査が実施され堀切等が出土した平八重城址、その上流には井ノ城址、下流には本八重城址が位置している。

[参考文献]

宮崎県教育委員会 1977 「雀ヶ野地下式古墳発掘調査」 宮崎県文化財調査報告書第20集

高城町教育委員会 1998 「町内遺跡分布詳細報告書」 高城町文化財調査報告書第8集

高城町教育委員会 2003 「様ヶ野遺跡」 高城町文化財調査報告書第12集

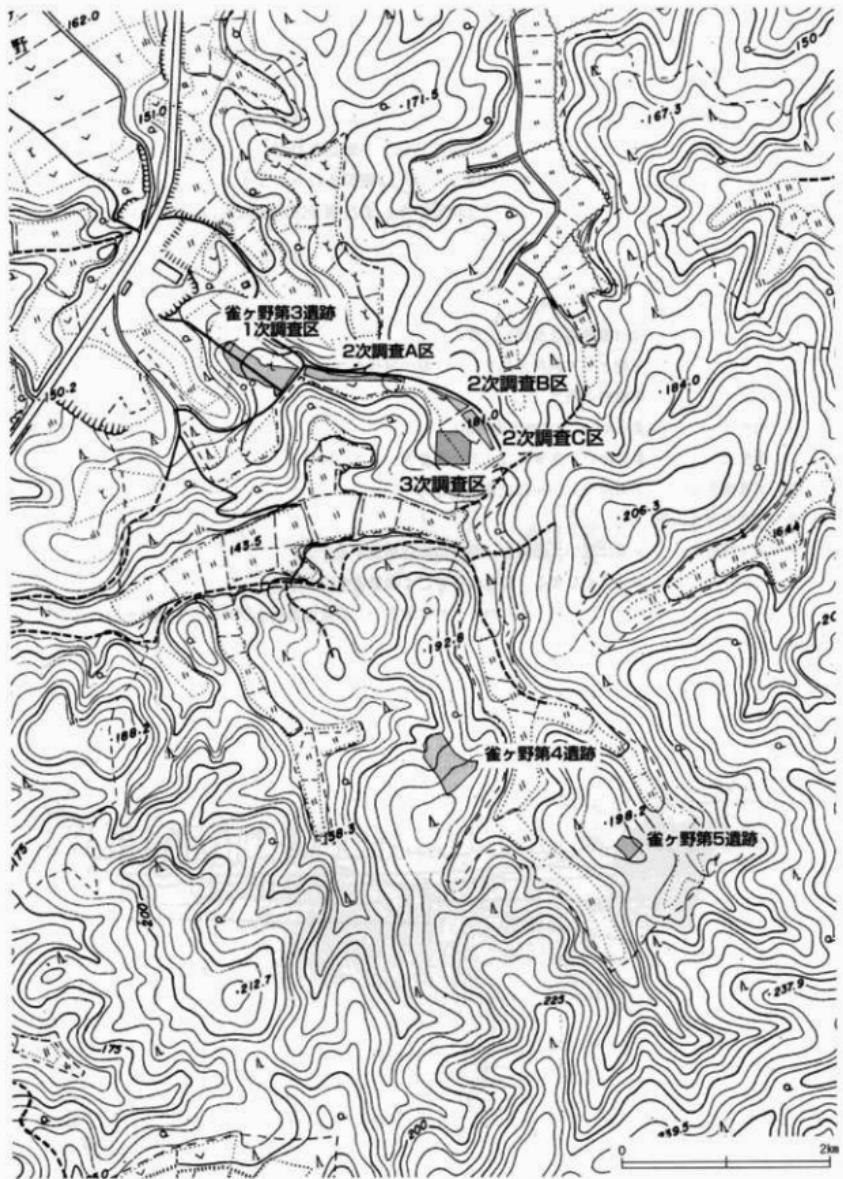
4 調査の方法及び経過

雀ヶ野第3遺跡の調査対象面積は1,099m²である。平成14年11月20日より作業を開始し、平成15年1月31日に全ての現場作業を終了した。

調査の方法は重機で表土を除去した後、人力で遺物包含層掘削、遺構確認、遺物の採取作業を行い、測量、写真撮影を行った。

本調査区は調査着手前に資材置き場として利用されていた際、1m程度のかさ上げがなされていたため堆土量が多く、その置き場を確保する必要から調査区を南北2区に分け、最初北側を堆土置き場として使用し、南側の調査終了後埋め戻し、北側を調査するという2段階の調査を行った。

造成土、耕作土の除去後、7層アカホヤ火山灰層上面において遺構の確認を行ったが、遺構、遺物の出土は確認できなかった。その後、重機で7層アカホヤ火山灰層を除去し人力により9層暗褐色土層、10層褐色土層を掘り下げた。遺構は9層暗褐色土層中及び10層褐色土層上面より散礫及び集石遺構6基が出土し、遺物は暗褐色土層より石縫、土器片、剥片、礫等が出土した。また10層褐色土層より土坑1基が出土し、土坑内より細石刃1点が出土した。



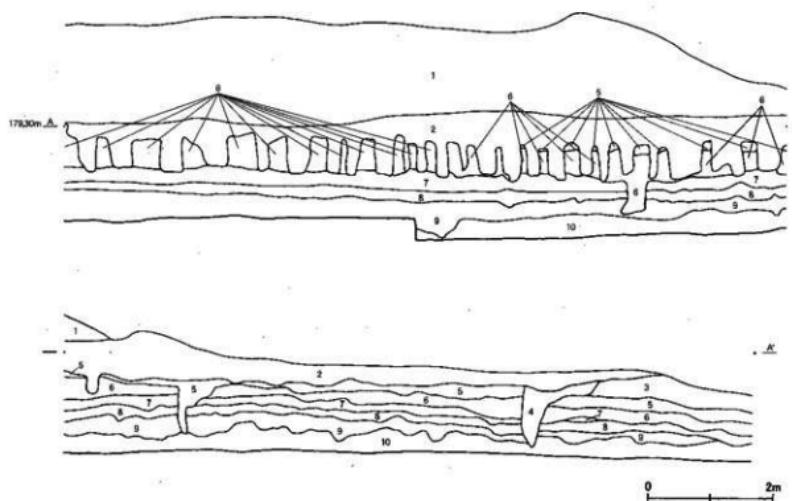
第3図 調査区位置図(1/3,000)

5 層序

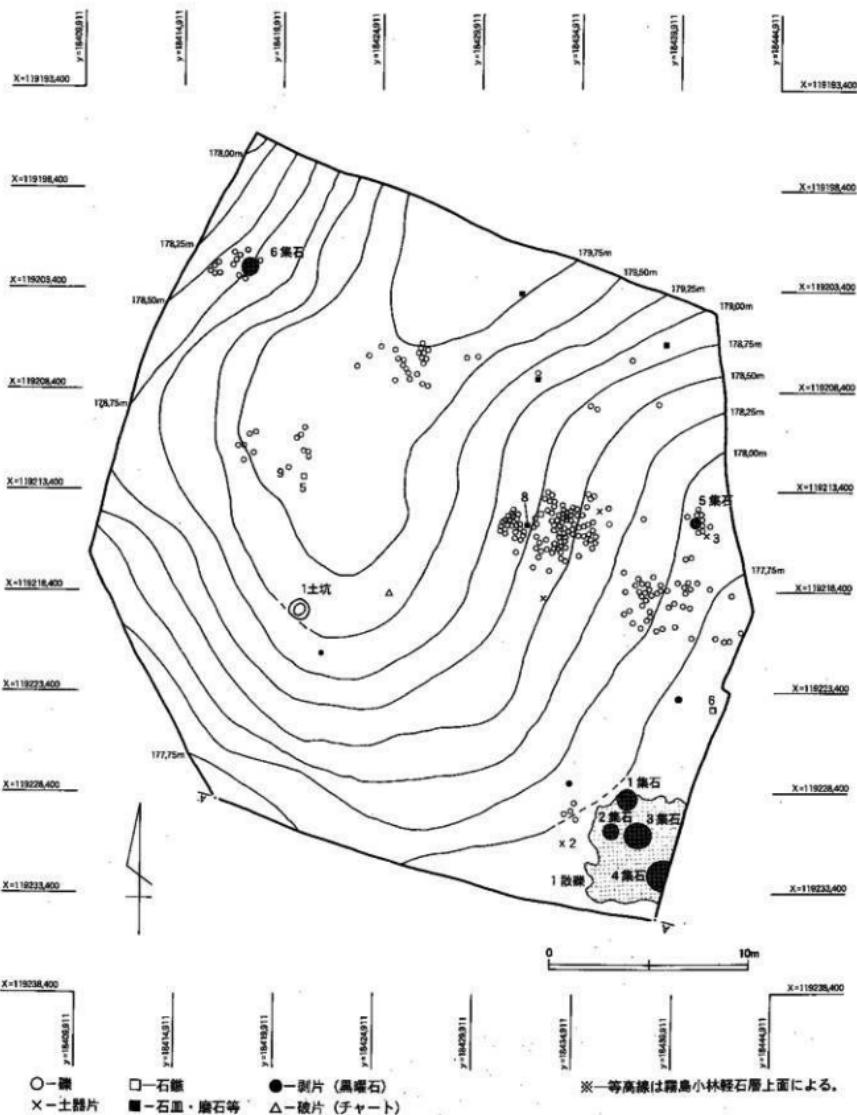
調査区の標高は177.75m～179.75mである。調査区の北側中央が北西—南東方向に延びる尾根の南端にあたり標高が最も高く、東、南、西の3方向に向け傾斜をもつ。

調査以前は変電所建設に伴う資材置き場として利用されていた。資材置き場建設にあたっては1m以上の盛土がなされており、南側調査区を中心に多量の造成土が確認された。造成土の下は畑地として利用されていた時の耕作土となる。畑では牛蒡を栽培していた時期がありトレンチャーによる搅乱がアカホヤ火山灰二次堆積層からアカホヤ火山灰層にまで及んでいた。また調査区南側においては少量ながら高原スコリアが確認されている。

| | |
|------------|---|
| 1層・造成土 | 資材置き場を造成した際の盛土 |
| 2層・耕作土 | 畑地として利用されていた時期の耕作土 |
| 3層・表土 | 畑地外の表土 |
| 4層・褐色土 | 柔らかい。木の根を少量含む。中位以下には8層黒暗褐色土がブロック状に少量含まれる。 |
| 5層・褐色土 | 柔らかい。高原スコリアを微量含む。木の根を少量含む。 |
| 6層・暗黃褐色土 | アカホヤ火山灰二次堆積層 |
| 7層・アカホヤ火山灰 | |
| 8層・黒暗褐色土 | 非常に硬い。霧島牛ノ脛火山灰に相当する。 |
| 9層・暗褐色土 | 硬く良くしまる。黒色粒子をごく微量含む。 |
| 10層・褐色土 | 9層に比べ若干柔らかく、やや明るい。硬質な黒色土ブロックを微量含む。 |
| 11層・霧島小林経石 | |

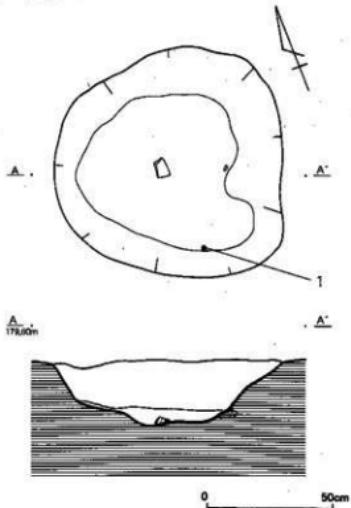


第4図 土層図(1/80)

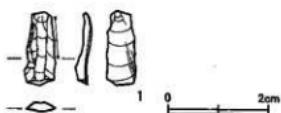


第5図 遺構・遺物分布図(1/250)

6 遺構と遺物



第6図 1号土坑実測図(1/20)



第7図 1号土坑出土石器実測図(1/1)

1号集石造構

調査区の東南隅、1号散礫内において検出された。2号、3号集石造構の北側、1号散礫内では最も北側に位置する。検出層位は9層にあたる。礫の範囲は直径約1mを測り梢円形を呈する。東側は後世の搅乱により一部が破壊されている。長梢円形を呈し長径約1.3m、短径約0.9m、検出面からの深さ約0.3mを測る掘り込みを伴う。

2号集石造構

調査区の東南隅、1号散礫内において検出された。1号集石造構の南側、3号集石造構の西側に位置する。検出層位は9層にあたる。礫の範囲は直径約0.9mを測り円形を呈する。円形を呈し長径約0.7m、短径約0.8m。検出面からの深さ約0.1mを測る掘り込みを伴う。

3号集石造構

調査区の東南隅、1号散礫内において検出された。3号集石造構の東側、4号集石造構の北西側に位置する。検

1号土坑

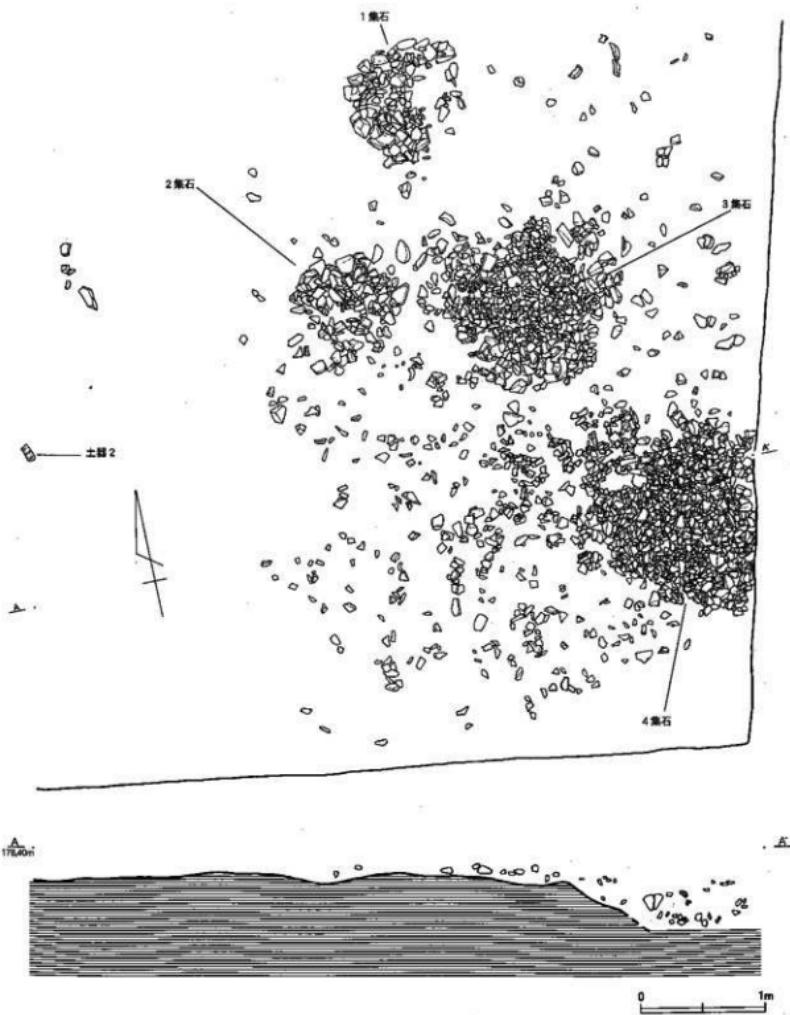
調査区のほぼ中央において検出された。検出層位は10層にあたる。平面形態は円形を呈し直径約90cm、検出面からの深さは約25cmを測り、10層を抜け11層まで掘り込まれる。埋土は一層で、やや柔らかく、色調としては10層よりもやや明るい褐色土である。土坑底面より礫片2点と細石刃1点が出土した。

1は完形の細石刃で、石材は黒曜石である。背面右側縁上部に微細な剥離痕を有する。

1号散礫

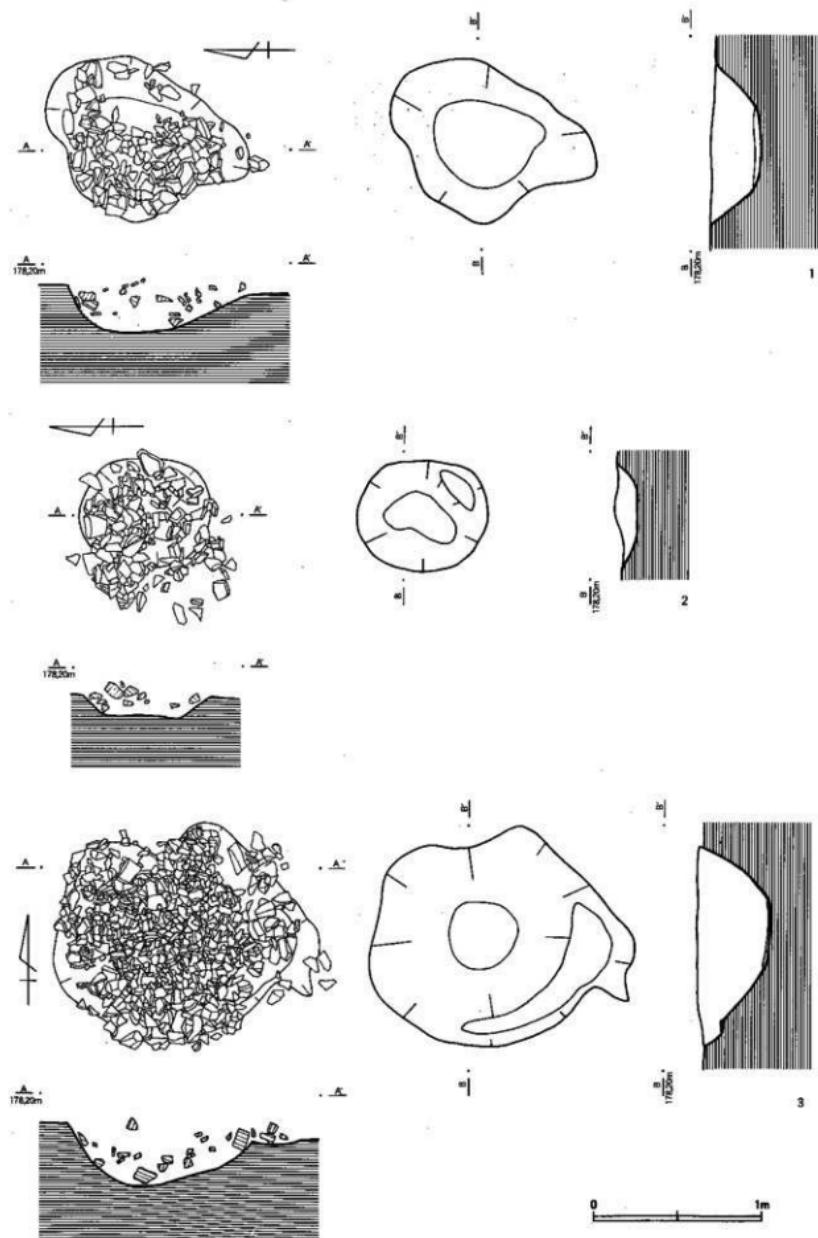
調査区の東南隅において検出された。南東方向に斜面を下りきり、やや平坦になった部分に位置する。出土層位は9層にあたる。南北約6m、東西約4mの範囲で検出されたが南、東側共に調査区外であり、その方向へ範囲が拡大すると考えられる。散礫内より1～4号集石造構が検出された。各種のレベルはほぼ同一で厚さは薄く、1～4号集石造構の上部構成と同レベルである。1号散礫の約2m西において土器片1点が出土した。

2は深鉢脛部である。外面には短い条痕と縦位に施し、内面は丁寧なナデ調整である。

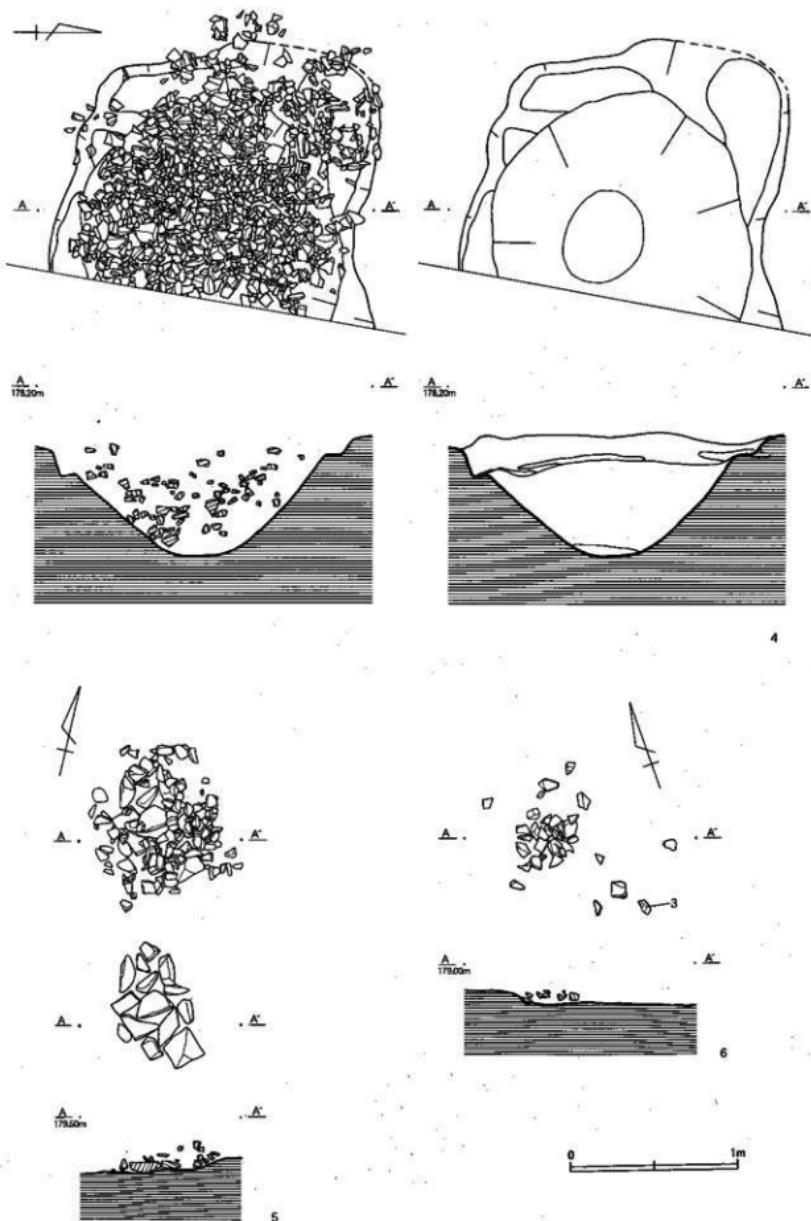


第8図 1号散石出土状況図(1/40)

出層位は9層にあたる。礫の範囲は直径1.3mを測り円形を呈する。礫の密度はやや薄く埋土中に炭化物を含む。楕円形を呈し長径約1.6m、短径約1.3m。検出面からの深さ約0.4mを測る掘り込みを伴う。



第9図 1～3号集石実測図(1/30)



第10図 4～6号集石窓測図(1/30)

4号集石遺構

調査区の東南隅、1号散礫内において検出された。3号集石遺構の南東側に位置する。検出層位は9層にあたり、東側は調査区外である。礫の範囲は直径1.5mを測り円形を呈する。礫の密度は薄く埋土に多量の炭化物を含む。掘り込みを伴う。掘り込みは検出面においては平面形が一辺約1.8mの隅丸形を呈し、一段下がり直径約1.5m、深さ約0.6mを測る掘鉢状の土坑を形成し、その外周に沿いテラス状の平坦面をもつ。

5号集石遺構

調査区の北西隅において検出された。西方向に下る斜面上に位置し、検出層位は9層にあたる。礫の範囲は円形を呈し直径約0.8mを測る。礫下にはやや大型の扁平礫14個が配されていた。集石の西側には約2mにわたり礫が広がっている。

6号集石遺構

調査区のほぼ中央東側において検出された。東方向に下る斜面上に位置し、検出層位は10層上面にあたる。礫の範囲は直径約0.4mの円形を呈する。配石、掘り込みは伴わない。集石中心より東南約0.5mにおいて土器片1点が出土した。

2は深鉢脚部である。外面はナデ調整、内面は丁寧なナデ調整を施す。

包含層出土の遺物

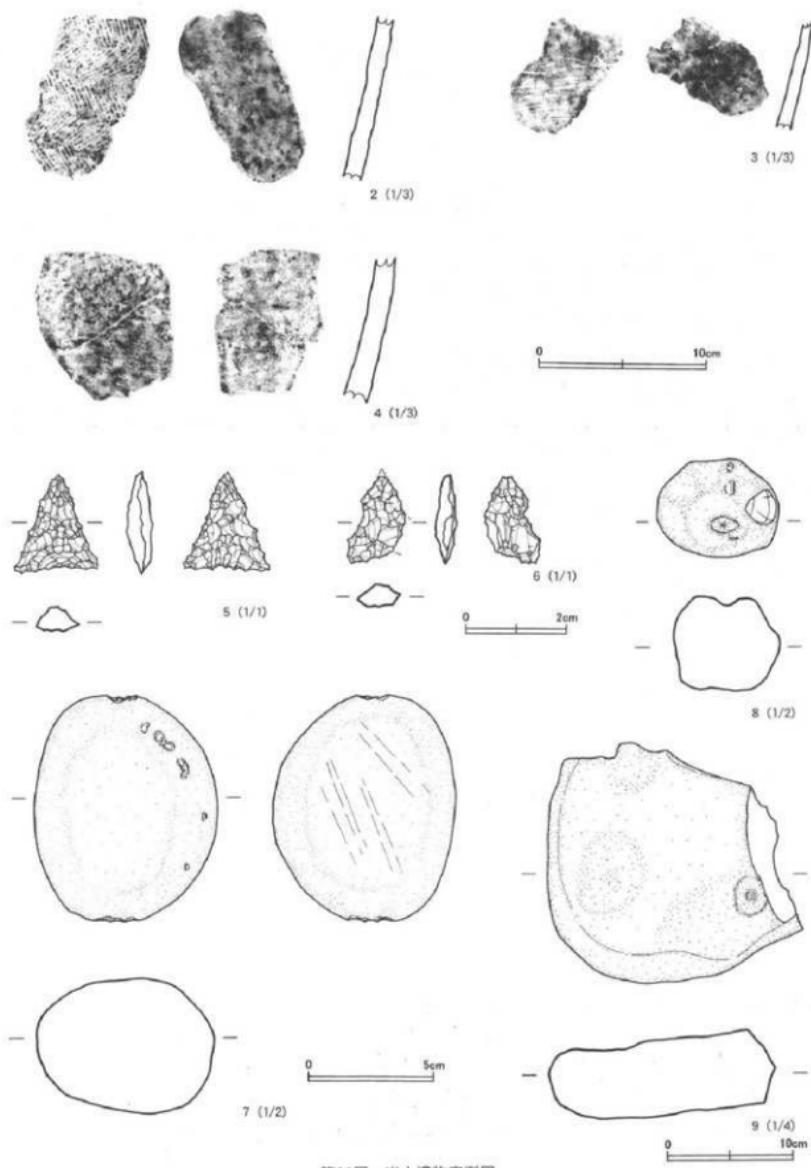
4は深鉢脚部である。外面はナデ調整、内面は丁寧なナデ調整を施す。5、6共に石鎚で平面形が二等辺三角形を呈し、抉りの浅い凹基である。石材は黒曜石である。6は先端と右下半を欠損する。7は敲石である。楕円形を呈し、長軸両端に敲打痕が残る。片面の中央に擦痕を有し磨石としての用途も考えられる。石材は砂岩である。8は中央に敲打痕の残る凹みを持つ。石材は頁岩である。9は台石と考えられる。上部に数箇所の凹みをもつ。石材は砂岩である。

表1 出土土器観察表

| No. | 出土地点 | 種別 | 器種 部位 | 手括・文様 | | 色調 | | 胎土 | 備考 |
|-----|------|------|----------|-------|-------|-------|-------|--------------------------------|----|
| | | | | 外器面 | 内器面 | 外面 | 内面 | | |
| 2 | 1号散礫 | 縄文土器 | 深鉢 脚部 | 短い条痕文 | 丁寧なナデ | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | 1~2mmの白色粒少々・1mm以下の黒色粒ごく少量・茶色微量 | |
| 3 | 6号集石 | 縄文土器 | 深鉢 脚部 | ナデ | 丁寧なナデ | 橙 | にぶい褐 | 1mm以下の黒色粒少々 | |
| 4 | — | 縄文土器 | 深鉢 脚部 | ナデ | 丁寧なナデ | 明黄褐 | にぶい黄橙 | 1mm以下の墨色・茶褐色粒ごく少量 | |

表2 出土石器観察表

| No. | 出土地点 | 種類 | 最大長(cm) | 最大幅(cm) | 最大厚(cm) | 重量(g) | 石材 | 備考 |
|-----|------|-----|---------|---------|---------|-------|-----|----|
| 1 | 1号土坑 | 鍬石刃 | 1.4 | 0.6 | 0.2 | 0.2 | 黒曜石 | |
| 5 | 9層 | 石鎚 | 1.9 | 1.75 | 0.5 | 1.1 | 黒曜石 | |
| 6 | 9層 | 石鎚 | (1.8) | (1.2) | 0.5 | 0.8 | 黒曜石 | |
| 7 | — | 敲石 | 8.8 | 7.2 | 5.05 | 479 | 砂岩 | |
| 8 | 9層 | — | 3.75 | 4.35 | 4.2 | 106 | 頁岩 | |
| 9 | — | 台石 | 13.7 | (14.9) | 4.95 | 1,700 | 砂岩 | |



第11図 出土遺物実測図

7まとめ

雀ヶ野第3遺跡は高城町の北部、宮崎平野と都城盆地とを隔てる標高200～300mの山地内に位置し、過去2度にわたり発掘調査が実施されている。今回の調査区は標高180mの尾根上に立地し、第2次調査C区の西側隣接地に当たる。旧石器時代から縄文時代にかけての遺構・遺物が確認された。

旧石器時代末～縄文時代草創期の所産となる細石刃は1点のみの出土であった。ごく付近の出土例としては大淀川を挟んだ対岸、高岡町小田元第2遺跡が上げられる。都城盆地内では都城市大岩田上村遺跡、山田町池増遺跡等に見られる。なお細石刃は1号土坑からの出土であるが、調査時に土坑の底面を若干掘りすぎており、遺構に伴わない可能性もある。

本遺跡の主体となる時期は縄文時代早期であった。遺構は散礫、集石遺構が確認されている。調査区東南隅にて検出された1号散礫は東、南側が調査区外となるが、その方向性より隣接する第2次調査C区にて検出された散礫へと続く可能性がある。集石遺構は6基検出された。掘り込みを伴うもの4基、配石を伴うもの1基、掘り込み・配石を伴わないもの1基とその形態は多様である。1～4集石遺構は1号散礫内にて検出され、散礫と集石遺構の最上部構成礫とはほぼ同レベルであった。いずれも掘り込みを有するが、1、2号集石遺構と3、4号集石遺構とでは規模、炭化物の有無に差異が見られる。遺物は土器片、石鏃、剥片、磨石等が出土したが、いずれも少量に留まる。図化できた土器片は3点であった。1は短い条痕文を有し、桑ノ丸式土器に相当すると考えられる。2、3は残存部がナデのみの無文土器であるが、厚い器形や内面調整として丁寧なナデを施す点より、口縁部に貝殻条痕文を施し、胴部にはナデ調整を行う中原式土器の胴部に相当すると考えられる。

現在整理中であるが第2次調査C区においては散礫、集石遺構、中原式土器、桑ノ丸式土器を中心とした縄文時代早期土器群等が出土しており、今回の調査と近い様相を示している。そのため2次調査C区から3次調査区へとほぼ同時期の遺跡の広がりが想定される。

図 版



遺跡遠景



南側調査区遺物出土状況



南側調査区発掘



北側調査区発掘



層序



1号散砾



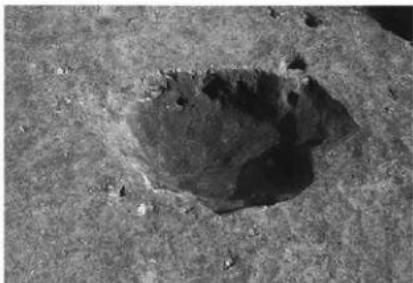
1号土坑



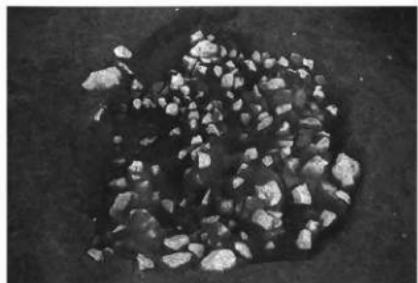
1号集石遺構



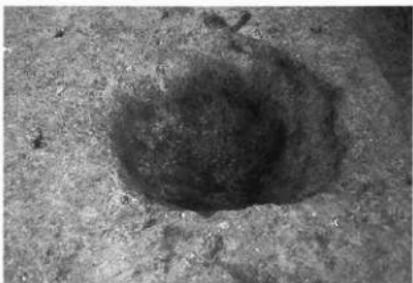
2号集石遺構



2号集石遺構掘り込み



3号集石遺構



3号集石遺構掘り込み



4号集石遺構



4号集石掘り込み



1～4号集石遺構 完掘



6号集石遺構



5号集石遺構



5号集石遺構配石



2



3



7



1



5



6



7



8



9

出土遺物

報告書抄録

| ふりがな | すずめがのだい3いせき(だい3じちょうさ) | | | | | | | |
|--|---|---------------|------------|-------------------------|--------------------------|------------------------------|---------------------|------|
| 書名 | 雀ヶ野第3遺跡(第3次調査) | | | | | | | |
| シリーズ名 | 高城町文化財調査報告書 | | | | | | | |
| シリーズ番号 | 第16集 | | | | | | | |
| 編集者名 | 近沢恒典 | | | | | | | |
| 編集機関 | 高城町教育委員会 | | | | | | | |
| 所在地 | 宮崎県北諸県郡高城町大字穂満坊46番地2 | | | | | | | |
| 発行年月日 | 2004年3月 | | | | | | | |
| 所収遺跡名 | ふりがな所在地 | コード | | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| すずめがのだい3いせき 雀ヶ野第3遺跡 <small>(第3次調査)</small> | たかじょうちょう 高城町 <small>おおあがし か 大字四家 あざすずめがの 字雀ヶ野</small> | 453439 | 6008 | 31° 55' 28" 付近 | 131° 11' 41" 付近 | 2002.11.20 ~ 2003.1.31 | 1,099m ² | 鉄塔建設 |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺物 | | 主な遺構 | 特記事項 | | |
| 雀ヶ野第3遺跡 <small>(第3次調査)</small> | 散布地 | 旧石器時代 縄文時代 | 土坑 集石遺構 | 細石器 縄文土器 石鐵 | | | | |

高城町文化財調査報告書第16集
雀ヶ野第3遺跡（第3次調査）

2004年3月 発行

編集・発行 高城町教育委員会
宮崎県北諸県郡高城町大字種溝坊46番地2
郵便番号885-1202 電話番号0986-58-2317

印刷・製本 (有)アマガミ印刷
宮崎県北諸県郡高城町大字種溝坊144番地4
郵便番号885-1202 電話番号0986-58-5851